
心の乱れとは @ 2 6

ビビンバ吉田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の乱れとは @26

【NZコード】

N1351M

【作者名】

ビビンバ吉田

【あらすじ】

心が乱れる話。

具体的な事象が無くとも人の心は動くもの、ということです。

今日は平和だった。

どれくらい平和だったかというと、転校生の自己紹介で「特技はチヨップでカニを割ることです」というので毛蟹をそつと教卓に置いたらすごい形相でバツシンバツシンチヨップを數十回叩き込んだが全く割れる気配は無く、「これはカニではありません」と半泣きでそのまま別の学校に転校してしまったくらい平和だった。

今日も学校から特に急ぐこともなく家路に着く。

朝からポケットに入れっぱなしにしていた携帯を出して開いた。

不在着信が一件。

留守番電話サービスに接続、再生してみる。

「お風呂場の湯気を横にしていると、海拔20mと40mの端っこを固めて対角線から見てるみたいだね」

やはり、彼女からだった。

……湯気を横にする？

今までお風呂にはほぼ毎日ベースで入っているが、湯気について真剣に考えたことが無かった。

彼女にすれば湯気にも向きがあるらしい。縦湯気、横湯気。

湯気は単に水が気体になっている状態で、デザインもタイトルロゴも無いのでパツと見では方向を判別できないように思える。

判別できたとしても、垂直方向に長く伸びていれば縦、水平方向に長く伸びていれば横、といった感じだろう。

湯気を直に見ながら考えようと思い、僕は風呂場へ入って浴槽にお

湯を入れ始めた。

やがて湯気がもわもわ上がり始める。

それをしばらく眺めていると、これは縦だな、このへんは横だな、と何となく見えてきた。

ある程度の湯気の塊がそういう風に見える。

人間の認識力はいい加減なのが良く出来ているのか、とも思ったが今は他に考えることがある。

この湯気を全部横にする。

縦長になっている、縦湯気を上下からおさえつけようとする、一瞬、横湯気の帯になった。

……じうじう事か？

今は湯気が少ないけども、風呂場が湯気でいっぱいになっている状態で湯気を上下から抑える、を根気良くなければ横湯気の帯を作れそうだ。

じう、横に。

横に。

横の帯に。

そうか。 そうだ。

この帯が海拔20mと40mに見立てられているのではないだろうか。

つまり彼女は湯気で2本の線を作っていたのでは。

しかし湯気の線と海拔のつながりは？

海拔20mや40mを専門としている知識人を集めて横に並べるならこぞ知らず……。

彼女は湯気を変質させるような資格でも持っているのだろうか。湯気黒帯とか、スチーム3段とか。いや、しかし細分化が進んだ時代とはいえ、湯気だけの資格は無いか。

スチーム3段だと3層の蒸気が出る加湿器みたいだし。

……待てよ、彼女は湯気自体が海拔を固めたものだとは言つてなかつた。

そうしていると、対角線から見てるみたいだといつて。横にする行為を言つていたのだ。

そもそも海拔を固めた、となるとその付近で起こりやすい現象を抽出する、といつてのことになるが、

海拔20mは、時々大きな津波で「うわー」となるような気がするし、潮風が結構キツイ氣もする。

「ここって海拔20mなんだー」と言つ人もいるだろ。

海拔40mの方は「ここって海拔40mなんだー」と言う人がいて、他には、海拔40mの方が20mよりも地中部分が少ない、というくらいしか特徴が思いつかない。

海拔20mと40m、正確にはその端っこだから間の20m部分を抜いて端っこ同士の平行線をくつつけるというイメージだが、当然、くつつけても映像としては不連続になる。

そこにこの世の秩序は無い。

無秩序に流れる映像を、彼女は対角線から見る。

横にした湯気がすぐに拡散して秩序を失うのを湯気の外側から見る。

そういうこと、か？

どこか共通項があるような気がしてきた。

20と40は例として出しただけで数字 자체は何でも良かったとす

ればこの考え方でも悪くは無いと思つ。

対角線から見る、となると水深20mと40mの端を集めた場所になり、実際に彼女が見ているのがその位置だとしたら彼女自身も無秩序な何かになってしまつが、別に実際彼女が秩序無視し

ているのではなくて単に秩序から外れているものを見ているようなそんな気分になつてゐると言つてゐる。そんなところなのではないだろうか。

そこまで考えたとき、居間に置いた携帯電話から再び着信音が響いた。

そして、いつの間にかお湯が溢れて足が濡れてしまつた。僕はお湯を止め、靴下を脱いで足ふきマットでふいたがそうしていつも通り携帯は鳴り止んでしまつた。

諦めてゆつくり居間に戻つて携帯を開き、不在着信を見る。それはやはり彼女からで、僕は留守番電話サービスに繋いだ。

「それと、お風呂あがりはやつぱり五ツ矢サイダーだね」

そうだ、お湯も溢れてしまつたことだし、もうこのままお風呂に入つて、サイダーでも飲もう。

ああ、でも先にコンビニで買つてこないと。

ともかく今日も平和だった。

明日も平和だといいなあ、と思つた。

(後書き)

元は別サイトにて不定期すぎる連載をしているものを、
他サイトで何かしらの反応を得られればと思い投稿させていただい
た次第です。

元のサイトではこれが第26回田の話なのでタイトル部に@226と
つけています。

内容については特筆致しません。
読んで何かしらを思つて頂ければ幸い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1351m/>

心の乱れとは @ 26

2010年10月14日08時47分発行